

同じように腹を痛めた子であれば、かわいさに違いはないはずであるが、それなのに、不幸せな子ほどふびんであろう。神もそのとおりで、難の多い、不幸せなものほど、おぼしめしが強い。

……「天地は語る」第三十二条……

## 解説

この御教えは私達人間に対する“神様の御思い”を、人の“子に対する親の思い”に例えて現わされたものであります。

親というものは、わが子なれば皆同じようにかわいいはずなのに、順調に人生を歩む子は安心して見ていただけで良いが、逆に、人生につまずき苦勞している子は、放っておかれず、心配で、何とかしてやりたいとの思いが募るわけです。この思いこそが正に神様の御心であります。

よって、この御理解には私達すべての人間に「神が何時如何なる時も隔てなく見守っているから、一心に信心して御蔭を受けてくれよ！」との神様の切なる御思いが込められているのです。私達はこの御心に答えて一層の信心の稽古に勤しみ、大御蔭を蒙らせて頂かなくてはならないのです。